はじめに

本書は、関西大学教育研究高度化促進費「大阪に関する地域資源の掘り起こし・再評価とDCH（Digitalised Cultural Heritage)化による繋がりの創出－関西大学図書館所蔵資料の活用」(2018～2019 年度）でデジタル化した地図の解説書である。本プロジェクトは、3 キャンパス 5 学部 6 人の専門の異なる教員で構成し（メンバーは巻末を参照)、以下を目的として、2 年間研究に取り組んだ。

1　関西大学図書館所蔵資料の再評価を行い、本学学術財産の積極的公開を促進する
2　主に関西学図書館所蔵の大阪関連資料のデジタル化の取り組みを通じて、デジタル化技術の向上に協力する
3　地域連携活動として、各地でワークショップを行い、地域内の人々の交流、地域外の人々の地域の人々との交流を促進し、まちづくり、まちの活性化に貢献する
4　関係団体、関係機関との連携を促進する
5　オーラルによる個人の思い出・記憶のドキュメント化を進め、関連の史料を収集する

本プロジェクトでは、2018 年度は凸版印刷、2019 年度は株式会社サビアにスキャニングを依頼し、1 と 2 の目的に取り組むことができた。合計 22 点の地図をデジタル化し、既存 1 点を含めて、合計 23 点のデジタル化を終えた。本書では、18 点の解説を行う。デジタル化地図の一覧を、資料として巻頭に掲載する。

3 と 4 の成果については、これから詳しい検証を行う必要があるため、本書で詳細を報告することができない。デジタル地図を公開し、自由に話をする「ワークショップ」の開催記録を資料として巻末に掲載する。

各地域のみなさま、本学校友会のご協力で、当初の目標を超え、大阪旧市内のほぼ東西南北でワークショップを開催することができた。大阪春秋編集室の長山公一氏にはプロジェクト発足当時から、ワークショップ開催の仲介等大変お世話になった。みなさまに、ここに記して感謝申し上げる。

熱心な参加者も多く、資料を提供してくださった方も多数いらした。本来は名前を記して感謝すべきであるが、匿名希望の方もいらっしゃるため、この場でお礼を申し上げて感謝の意を表したい。

最後まで解決ができなかったのは、5 のオーラルによる思い出・記憶のドキュメント化である。多数の人が同時に話をするケースが多く、録音しても声がかぶってしまう。個人に詳しくお話を聞こうと思ってレコーダーを向けると、話が突然ストップしてしまう。メモをしても、メモをしきれない場合も多い。大きな問題の一つは、質問をすると、「それほど重要なことではないから」、「たいしたことではないから」と話を中断されることである。新情報がさらに新情報を引き出すことは明らかで、少しでも情報を記録したいが、ドキュメント化は、複数の不特定人物のオーラルヒストリーの記録の問題とも絡めて、今後検討を必要とする課題として残ることになった。

しかし、90 代の男性が「何もわからへん」と言いつつ、だんだんと戦前の記憶を蘇らせ、とうとうと当時の記憶を語り出したこともある。その方は、私たちが熱心に話を聞いている姿を見て、自分の話が「語る値打ちがある」とわかったとおっしゃった。同じ地域に住みながら、スーパーでたまに顔を見る程度の知り合いが、昔の思い出を語ることで旧に親密になるケースもあった。もちろん、他所から来た参加者が互いに仲良くなるケースは多かった。

このようなケースを見ていると、かつては、何かを「しゃべくりあう場」があちこちで花開いていたが、現在都市化とともに住民の個人化、匿名化が進み、お互いに何かを自由に「しゃべくりあう場」というものが消失してしまっていることを強く感じる。過去からの見えない伝統をつなぐ、そのような場を現在に創出し、未来へと繋げることは、大きな課題であることが見えてきた。人と人を繋げる接着剤として、地図とその他の大阪関連史料の役割は、今後ますます大きくなるだろう。

私たちのプロジェクトを推進する上で、図書館所蔵地図の撮影許可、使用許可、館外特別帯出許可を与えてくださった本学図書館事務室のみなさまにも、ここからの感謝を申し上げる。ワークショップの共同開催にあたって、ご尽力をいただいた関係者のみなさまにも、この場を借りて改めてお礼を申し上げる。

本プロジェクトの遂行は、関西大学教育研究高度化促進費による研究費交付による。本研究費のおかげで、かなりの点数の地図をデジタル化し、複数回のワークショップを開催することが可能となった。深くお礼申し上げる。

解説文は、すべて研究代表の浦の文責となる。記載の誤り、新しい情報、その他お気づきの点があれば、ぜひお知らせいただきたい。

なお、現段階では条件が未決定であるため、デジタルデータの提供・貸出は当面行わないこととしている。また、諸条件がそろった後にネットでの公開を計画しているが、現段階では公開日、公開方法については未定である。データに関する問い合わせは、研究代表であった浦にお願いしたい。

2020 年 2 月 4 日立春

研究代表　　浦　和男（人間健康学部）

【注】

地図名のうち、「圖」のみ、本文中の「図」との区別が煩雑になるおそれがあるため、「図」で統一した。